

SHOKOKAI NEWS



創刊記念スペシャル 新春対談

金田英樹 町長 × 松永幸久 会長

- P.1-2 — 新年のご挨拶
- P.7-8 — 商工会トピックス
- P.9 — 次の飛躍へ! [肥後製油株式会社]
- P.10 — HOT NEWS!!
- P.11 — JUMP UP! [ヘアサロンISHIHARA]

01

2022.1

JUMP UP!
with 商工会

商工会と企業さんの歩みをインタビュー!
今回は創業86年
「ヘアサロンISHIHARA」さんです。

SINCE 1936

ISHIHARA
HairSalon ISHIHARA

with SHOKOKAI



2代目石原謙治さん(左)と3代目石原安章さん

今回の MISSION > 事業継承・記帳代行

ワクワク新しい発見があるお店
「ヘアサロン ISHIHARA」

素敵な笑顔の店主は、人を楽しませるのが大好きな3代目石原安章さん。お父様である2代目の謙治さんは、清潔感のあるスラっとした出で立ちで、81歳の今でも現役でお店に立っていらっしゃいます。

3代目までは理容店、未来の4代目からは大好きなコスプレの技術を活かして、メイクからヘアカラーなど“性別や年齢問わない美容室”にサービスを拡大予定。また、多才な石原さんご一家は、カメラの腕もあるので「メイクから写真まで、幅広くお客様に提供できるお店に展開したい!」と、今後の「ヘアサロン ISHIHARA」について楽しそうに語ってくれました。

結果的に予想以上のサービスに大満足!
頼んで良かった[記帳代行]

今こそ「記帳代行」を商工会にお願いしていますが、昔は確定申告の作業を自分で行なっていました。商工会に、売上などを開示することに最初は抵抗があったものの、それをオープンにすることで小規模控除や退職金制度などの様々なアドバイスを受けることができ、会費以上のサービスに大満足。結果的に有意義な時間が生まれ、事業に集中することができ、売上にもつながってるとか。

あんなに悩んでた申告時期も、今では毎月商工会に月計表を渡すだけ! お正月休みには家族旅行にも行けるようになりました。

その他にも、商工会から補助金などの紹介で、どこにも負けないこだわりの立派な看板を作ることでもできた!と喜び倍増でした。

どこから始めたらいいかかわからない!
信頼関係が身を結んだ[事業継承]

「記帳代行」で普段から信頼関係を築けていたため、「事業継承」も商工会にお願いできた要因の一つ。100年以上続くお店を目指すには、事業の継承は外せません。当初、安章さんは「事業継承」にはいい返事ではなかったそう。しかし、謙治さんの体力面や年齢を見ながら、お店を継ぐことを心に決めます。

ところが「事業継承」と言ってもどこから始めていかわからず、商工会に「事業継承」の相談へ。すると、難しい書類や手続きも親切・丁寧に教えてもらい、現在スムーズに手続き中。次に何をしたらいいかのスケジュールを作ってもらい、迷わず動いているそうです。改めて「商工会に依頼してよかった!」と胸をなでおろします。

「商工会は、こんなにも考えてくれているのか!と熱さを感じます。とにかく素晴らしい! 困ったりわからないことがあったら、まずは商工会に相談ですね!」と感謝でいっぱい石原さん親子でした。

担当者より

「記帳担当」の長嶋です。有難いお言葉をいただき恐縮に存じます。石原様には、毎月きちんと整理された帳簿類をご提出いただいております。息子様に後を継がれることになりましたが、これからもしっかり寄り添って、記帳のお手伝いをさせていただきます。

ヘアサロン ISHIHARA様から、事業承継相談が記帳代行担当の長嶋にあり、上部団体である熊本県商工会連合会の専門部署に相談、不安となっておられた課題について支援をさせていただきました。その結果、お父様から息子様への「事業承継」の道筋ができました。



あけまして おめでとうございます

新年のご挨拶を申し上げます

「商工会会員でよかった」と
思っていただけけるような
活動を続けて参りたい。



大津町商工会 会長
松永 幸久

新春を迎えるにあたり、謹んでお慶び申し上げます。会員の皆様には日々、商工会の運営に特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて昨年末、新型コロナウイルス感染症の広がりが収まり人の往来が活発化し、やっと希望の光が差しきたと安堵しておりましたが、新年に入りオミクロン株の感染が急速に拡大してまいりました。誠に悔しい限りですが、この事態に負けることなく新しく迎えたこの一年を皆様とともに乗り切つて、すばらしい年となるよう願うものです。

とは言え、各地で頻繁に発生する災害が日本経済の停滞を引き起こし、地域の商工業にも計り知れない影響を与えていることは言うまでもありません。このような状況の中で、いかに持続可能な事業活動ができるのかを考えた二年でした。パンデミック二年目では、総会や役員会、各種セミナー、イベントなど取りやめ、主要な会議は書面による議決という対応を取つて参りました。二年目は、もう一步ステップアップした対応として、会議や

セミナー等は開催会場での参加とパソコンやタブレット、スマートフォン等、モニター越しで双方が一緒に参加できる環境づくりに取り組みました。いわゆる「ハイブリッド型方法」と言われるものです。現在、可能な限り全てこの方法で実施しております。この環境づくりに関しては、町ご当局的理解と支援があったことを報告させていただきます。改めて感謝申し上げます。

また、大津町の二大イベントである地藏祭りを二年続けて中止いたしました。しかしながら、子供たちの無病息災を祈願して行われる祭りだからこそ「コロナ禍の中で何か違う形で実施することに意義や価値があるのではないか」と協議いたしました。結果、子供たちに希望を持ってもらうべく、様々な所で技能を磨いている子供たちの成果を発表する場を作りたいとして、二月二十二日に大津文化ホールにおいて発表会を開催することとなりました。これもコロナ対策として、会場に來られない方のために当日の発表会の模様を動画配信する事を計画しております。

この様に私どもは、感染拡大当初から言われた「新しい生活様式」への対応を、前向きに躊躇なく取り入れ事業に取り組みで参りました。今後もその姿勢は変わらず行動に移していきたいと存じます。そして、役員「丸」となって、会員皆様「商工会会員でよかった」と思っていたような活動を続けて参ります。

最後に、「この「商工会だより」は、本年から装いも新たに発刊したものでございます。これまでは年に一度、新春号として会員向けだけに発刊しておりましたが、本年からページ数を増やし、年三回発刊する予定にしております。会員様にとって有益な情報をより多く発信してまいります。

また、会員様だけでなく町ご当局や町内企業様にもお配りし、情報発信を通して会員増強も含め組織強化に努めて参る所存です。どうかご理解のほど、よろしく御願ひ申し上げます。

皆様のご更なるご繁栄とご健勝をお祈りいたしまして、年頭のご挨拶いたします。

「虎視眈々」と、
自分たちへの商機と捉え
準備を進める年に。



女性部部長
橋本 千春

大津町商工会の会員の皆様、明けましておめでとうございます。令和4年の新春を迎え、皆様にはつづがなく新春をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

昨年5月に、前女性部長の山本セツ様よりバトンを受け、部員の皆様を始め会員の皆様方のご支援ご協力のおかげで何とか運営できました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響により事業を行うことは難しい環境でございましたが、花壇整備事業や再生資源物回収事業などを行うことができました。今年には更に女性部活動に邁進してまいります。

さて、ご存知の通り昨年11月に飛び込んできた「世界最大手のTSMCが菊陽町に工場進出」というビッグニュースを見て会員の皆さまはどのように感じられたでしょうか。今年は干支でいうと寅年となります。虎にまつわる「虎視眈々」とい

う言葉があります。この言葉はいい意味にも悪い意味にも使うことができます。隣町で起きる出来事とは考えず、私たちは「虎視眈々」と自分たちへの商機と捉え、これから準備を進めていかなければならない年になるのではないかと考えております。工場の規模も巨大ですが、従業員も1,500人以上と聞いております。おそらく関連企業の進出も想定すると、大津町への経済効果も莫大ではないかと考えますし、それを如何に大津町へ引き込むかが、重要になると思います。今年には行政と商工会、地域が一体となって盛り上げていく必要がある年になる期待の年ではないでしょうか。

コロナ感染症については、新たな変異株も出てきておりますが、開発されている新たなワクチンや薬に期待して、コロナ感染症をはねのける熱い一年にしたいと思っております。どうか本年もよろしく御願ひ申し上げます。

かけがえのない人たちと、
かけがえのない
地域のために



青年部部長
山下 秀貴

新年明けましておめでとうございます。青年部部長を仰せつかつております山下と申します。本年もどうぞよろしく御願ひ致します。

青年部は、「かけがえのない人たちと、かけがえのない地域のために」をスローガンに掲げ、脈々と続く先人たちの教えに習い、事業を引き継ぎながら活動して参りました。

しかし、昨年から続く新型コロナウイルスの影響で、社会情勢が変化していく中、地藏祭りやつじ祭り、からいもフェスティバルなどの支援事業を断念すると同時に、「集まる」事が減り、人や地域との「つながり」が途絶え、これまで培ってきたものが行き場を失くしてしまつたかのような状態を迎える事となりました。このままでは、青年部の存在意義すら見失つてしまうのではないかとという危機感の中、部員同士が励まし合い、今できることを考え、小さくともひとつずつ動いていこうと立ち上がりました。

今の子供たちは、入学式、卒業式、

修学旅行、お祭りや発表会など様々なイベントが制限され、このままでは「何もできなかった」思い出だけが残つてしまひそうでした。そうならないように、我々は規模は小さくとも子供たちの発表の場をつくり、青空の下みんなで食事ができる企画をつくりました。結果として、子供たちの笑顔と「ありがとう」の言葉までいただき、我々の方が励まされる事となりました。「子供たちの笑顔」のひとつひとつが明るい地域未来への種となつていくことを望み、これからは「子供たちの笑顔づくり」事業に励んで参りたいと考えています。

我々青年部は「集える場所をつくる事」「つながる環境をつくる事」「続ける仕組みをつくる事」、これらの事を大事にしながら、本年も青年部らしく邁進していく所存です。皆様の益々のご指導とご鞭撻を頂戴できれば幸いです。

今後とも末長く、どうぞよろしく御願ひ致します。



思っております。

町長が思い描かれている、大津町の「商工業を含めた未来像」についてお聞かせいただければと思います。

金田町長「まず、大きな話からさせてくださいと、町全体のあり方として大切な視点は、「いま住み暮らす町民の皆様お一人おひとりが、安心や幸せを『実感』できること」、そして、それを「持続可能な形で実現すること」だと考えています。そのためには町民の皆さまの声をしっかりと聴きながら、町の大きな計画にも落とし込んでいくことが大切です。

まちづくりの方向性 Ⅱ 相乗効果と連携

松永会長「はじめに、装いも新に発刊する商工会会員誌『SHOKOKAI NEWS』創刊記念としての対談の申し入れを快くお引き受けいただき、心から感謝申し上げます。町長は、1001の公約を掲げ取り組んでおられますが、その中でも、商工業に関することを中心にお話できればと

一方で、町の予算や役場職員の人手も限られているので、多くを実現するには取捨選択はもちろんです、一定の人口規模・密度も必要で、町として人口を維持・向上させることも考える必要があります。商工業面では、交流人口も

含めて、人が増えれば様々な消費や雇用環境も伸びますが、単になりゆきに任せるのではなく、町としてお金が循環する仕組み、仕掛けづくりをしていくことが重要だと考えています。

また現在、町としてIT企業をはじめとした産業支援型企業の誘致に力を入れていますが、そうした新たな業種業態の事業者が町に流入し、地域の商工業との相乗効果を生む仕掛けを作っていきたいと考えています。

しつかり連携を取りながら

大津町の活性化を！

くる中で、産業構造の大きな変化も想定されるので、商工会の皆さまとも意見・情報交換しながらやっていく必要があると思っております。

また、中長期も踏まえた展望としては、地元の人材育成も重要です。例えば高校卒業後の進学や就職のタイミングで町外に出ていく子ども達も多いので、郷土愛を育み、地元に残る、あるいは将来的に戻る選択肢を広げてもらうための工夫も必要です。

誕生から青少年世代が一番の消費者

松永会長「町長がおっしゃるとおり、人材育成はとても大事だと思っております。いずれは大津に人材として戻ってきてもらう、そういうふうなさまでありたいと思っております。それから大津町がすごいいなあと思うのは、若い世代の

人たちが定住しているのは熊本県でもトップクラスであるということとです。それはやはり、子どもを育てやすい環境が大津町にあるからだと思います。

次に、コロナが沈静化して、終息した後どういう形で商工業を進めていくのかが、喫緊の課題だ思っています。現在、大津町でもいろいろな形で補助金をだしていただいたり、商品券の発行で消費喚起をさせていただいたり、多くの施策を打ち出させていただいております。そこで、ポストコロナ

ナをどうお考えかお聞きしたいのですが。

プロモーション・ブランディング・マーケティング

金田町長「商工業の分野においては、まずは既存事業者をしつかり守っていくことが非常に大事だと考えています。予算付けも含めて町民の方にも理解していただきたいと、下支えをしていきたいと思っております。このことは先を見据えた上でも非常に大

事で、町全体で見ても、コロナ終息後に産業が衰退していれば元に戻るのに多大な労力と時間を要します。それから、この間、JR豊肥本線や国道57号の復旧などもありましたが、単に待つのではなく今のうちから種をまいておく必要があると考えています。現在考えているのは、町としてのプロモーションやブランディング、そしてマーケティング戦略の確立です。

大津町には、環境や立地、



[商工会 会長]

松永 幸久

PROFILE / 大津町商工会会長。不動産売買・賃貸管理業「株式会社 歩不動産」代表取締役会長。2009年より商工会会長に就任。会員の皆様の事業発展のため、日々奮闘中。

[大津町 町長]

金田 英樹

PROFILE / 1982年大津町生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。元職の第一生命保険では、主に業務効率化や英国駐在、海外事業、支社課長などを歴任し、2012年に退職・帰郷。翌年2月の大津町議選に30歳で初当選、2期務める。2021年1月の大津町長選挙に38歳で当選し、同年2月より現職。



商工会通常総会

自分たちはこういうことをやっていくんだというビジョンを早く打ち出して、目標に向かつてあらゆる手段、戦略、戦術を講じていく。このことがポストコロナで重要になっていくと思います。

ビジョンの共有が非常に大事

金田町長 — そういう意味ではビジョンの共有が非常に大切だと考えています。イベントをやるにしても一過性のもではなくて、関係団体と情報を共有して中長期的に考え、どこに出口をもっていくのか、長い目で見て



恒例の地蔵祭

いかに収益を出していくかを共に考えることが必要だと思います。松永会長 — おっしゃるとおりです。私は情報の共有化ができて、そこにみんなが集中し合えるようになるというなと思っています。情報の共有化をして、それぞれのやっている事業が重ならないようにやっていく。それぞれの団体でノウハウは持っているので、知恵を絞り、情報の共有化ができるありがたいと思っています。それから、情報発信も重要であると思うんです。年に1回の地蔵祭を開催していますが、私たち商工業者は、町民の人たちに日頃からお世話になっているわけです。そういう意味でこの祭りは、利益を

大津町を、一緒に盛り上げる 仕組み作りを展開したい。

金田町長

出すためのお祭りではなくて、恩返しをする場所と想っています。そのことを「ぜひ来て楽しんで行ってください！」とお呼びかけをして伝えておきます。全国に行っている人たちにも、「毎年日程を変えずに8月23日・24日に必ずここでやってみよう」とメッセージを発信しています。そうすることによって全国にいらっしゃる地蔵祭を知っている人が、そこに期日を合わせて帰ってこられる方もたくさんいらっしゃると思います。「今年も息子や孫たちが帰ってきてる」等よく耳にします。



ハイブリットセミナー

雰囲気づくりと情報発信が信頼関係に

金田町長 — 町としての良い雰囲気づくりと情報発信、共有がうまくいくと町に活気も出ますし、そこで信頼関係が強化されることによって、まちづくりもしやすくなる。「実は他の町と比べてこんなに充実している」、「こんなに素晴らしい地域なんだ」など、知ること

以上に官民一体となってやっていきたいと考えています。やはり役場だけではできないことが山ほどあります。そこは是非、重ねてお願いしたいところです。松永会長 — 私どもも今後、身近に、町ご当局や関係団体とも情報交換をさせていただき、今以上の関係づくりをしたいと思っています。私は、いつも申し上げているんですが「大津町商工会の会員で良かった」と言ってもらえるような商工会を目指すことが大事だと。地域の経済団体として大津町の活性化にしっかりと取り組んでまいります。



TSMC建設予定地

く、地方でもいっばいいいものがありますので、海外にもどしどし情報を発信していくべきだと思います。熊本空港は、高雄便が飛びますが、毎日飛んでくれるようになるのと2時間もあるれば行きますから便利ですよ。金田町長 — 町だけで考えて動くのではなく幅広く連携していくことが大事で、今まで

本日は貴重なお時間とお話をお聞かせいただきありがとうございました。ごさいます。

行政サービスなど、様々な魅力や強みがあるので、それらをしっかりとして体系立てて上手に発信していくことが移住増にも、観光客増にも、立地企業増にも、すべてに繋がります。よって、具体的なコンテンツも更に充実させながら、町のブランドや環境を一層磨いていきたいと考えています。松永会長 — 私も、自分たちが待つていけばなんとかなるといふ姿勢じゃなくて、攻めの姿勢でやっていかないと手遅れになると思っています。全てにおいて積極的に取り組んでいくことが重要だと思っております。

で高まる幸福度もあります。そうしたことも含めて信頼感や地元愛を育てたいと私も思っています。

ハイブリット会議を導入

松永会長 — 大津町商工会では、ハイブリット会議をいち早く取り入れました。研修会に來れない人は、家や事務所から繋げばいいですから新しい生活様式を取り入れつつ、会員さんもIT関係に強くなっていくと思っています。ポストコロナでは、DX(デジタルトランスフォーメーション)の導入も重要なキーとして取り上



理事会

げられております。これらの取り組みを支援していくことも重要だと思っています。金田町長 — 先ほど、産業支援型企業の誘致のお話もさせていただきました。IT企業やコンサルティング企業が町内に増えてくると、ビジネス面に限らず自然な関わりの中で相乗効果が生まれることが多くなると考えています。松永会長 — そういう面では、私たちの立ち位置が大事ですよ。金田町長 — おっしゃる通りですね。また、そうした諸々の状況がコロナが落ち着いた後にどうなるか、あるいは町としてどうすべきかは、想像力を働かせながら今のうちに考えていく必要がありますね。

今後の

大津町について

松永会長 — 私はそれが一番心配で、なかなか着地点がまだ見いだせないであります。金田町長 — コロナに限らず、今後数年でTSMC関連企

海外への、積極的な 情報発信をしていきたい。

松永会長

◆ 青年部の活動報告

商工会青年部は44名で活動しており、毎月、役員会や定例会を定期開催し、部員間での交流・意見交換を行っています。

一昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響により「つつじ祭り」「大津地蔵祭り」等のイベントが昨年も中止となり、例年通りの活動を行うことが出来ませんでした。昨年はつつじ祭りの代替事業として、青年部主催でイベントを実施。地元太鼓クラブの発表会も併せて開催したことで多くの方に来場いただき、賑わいあるイベントの開催を行うことが出来ました。

また若い経営者の集まりである青年部は、部員1人ひとりの資質向上を図る事も目標としており、その時々に応じた研修やセミナーを行っています。

昨年は、新型コロナウイルスの影響を受けた事業者に対しての国、県、市町村による支援策について勉強会を実施。勉強会の中では、講師から話を聞くだけでなく、質疑応答や各部員同士が意見交換を行うことで、情報共有を図ることが出来ました。

商工会青年部は、出会う事の無かった若い経営者との出会いの場であり、今までとは違うネットワークを構築するとともに、かけがえのない仲間を得る機会を提供しています。

本年も精一杯青年部活動に取り組み、事業所の発展そして地域の発展へ繋げていきたいと思っております。

今後とも、商工会青年部をどうぞよろしくお願い致します。



参加してみてどうでしたか？

コロナ禍で行事が少なかったですが毎月の例会での10分スピーチや、アウトドアミーティングなど何かしよう、何かしようという意気込みを感じています。来年度に期待し、将来の希望を増やしていきたいです。(電気工事業)

昨年はコロナの影響でなかなか生活が出来ない中、今私たちに何が出来るか、子どもたちへ何が出来るかを考え事業に取り組み、たくさんの部員さんも入部された、良い年でした。今年はずっと皆様と飛躍できる年にしたいです。大津町商工会青年部！最高！（自動車整備業）

青年部に入ってちょうど一年です。最初は緊張もしましたが、和気あいあいとしている様子に安心感をおぼえました。青年部には“地域貢献”を重視しているという印象です。仲間や横のつながりを大事にしなが、自分自身の「貢献の輪」を拡げていくため、これからも積極的に活動に参加して参ります。(総合デザイン業)

◆ 女性部の活動報告

商工会女性部では、よりよい地域づくりに努めながら部員相互の連携を強化し、組織活性化に取り組んでいます。お気軽にご参加ください！

奇数月の第2土曜日にやっています！

「資源物回収事業」

奇数月の第2土曜日(午前9時～11時)に生涯学習センター駐車場で、新聞や段ボール等の紙類、アルミやスチールの缶類、ビン類、ペットボトルを回収しております。**持続可能な世界への第一歩を、皆様と一緒に取組みませんか？**最新情報は商工会HPでご確認ください。

※都合次第で商工会駐車場で開催することもあります。



きれいなまちでおもてなしを！

「環境美化活動」

毎年7月と12月の年2回、大津駅南と中学通りの花壇に花苗を植え、きれいなまちづくりに取り組んでいます。



「部員視察研修」

令和3年11月25日に天草市を訪問。地元女性部との意見交換会を行い、地域振興について学びました。

意見交換会では、それぞれの女性部が取り組んでいる事業や課題などについて情報を共有すると共に、課題解決に向けた取り組みを検討しました。

終了後は、2018年に世界文化遺産に登録された「**崎津集落**」を視察し見分を広めると共に、地域住民がボランティアガイドを行う姿や観光地での魅力ある商業のあり方など、地域振興について学びました。



◆ 大津まるごと! にぎわい市 寄ってみらんね!

令和3年10月30日・31日の2日間、熊本市上通のくびれす広場において「大津まるごと! にぎわい市 寄ってみらんね!」を初めて開催しました。

これは事業者の販路拡大・企業PRに繋げることを目的としたもので、新型コロナウイルス感染症に負けぬよう積極的な情報発信を行いました。

コロナの感染状況が落ち着き始めた時期でもあり、5,000名を超える方にご来場いただきました。また、出展については11事業者に参加いただき、自慢の逸品や特産品を販売されました。伝統工芸品である「梅の造花」も展示し、久しぶりの賑わいで笑顔あふれ、来場者・出展者共に好評をいただく事業となりました。

今回は令和4年2月4日(金)～5日(土)に第2弾を実施します。是非とも遊びに来てください!



参加してみてどうでしたか？

◎以前、びぶれすに出展販売したお客様が「大津町商工会の主催するイベントなので来てみたら、やっぱり出店されたのね!」と2年ぶりの再会を喜んで帰っていただきました。このイベントに参加できたことを感謝しています。(食品等小売業)

◆ スマホで撮れる映える 写真撮影セミナー

令和3年9月3日に、「スマホで撮れる映える写真撮影セミナー」を開催。会場参加者13名、オンライン参加者18名にご参加頂きました。

講師は、商業デザイナーとして活躍されている綿貫裕崇氏をお呼びし、魅力的な写真や動画をスマホで撮影する方法について学びました。オンラインショップやSNSでの情報発信に繋がっているようです。



◆ 商工会 ◆ トピックス

商工会の活動のアレコレ、お伝えします!

◆ 創業セミナー

大津町で創業をお考えの方や創業後間もない方などを対象として毎年「創業セミナー」を開催。昨年はカリキュラムを4日間に分けて開催しました。

今回、初めて行う取り組みとして、本会に導入した配信設備を活用し、リアルとオンラインを同時に行う「ハイブリッド型」でのセミナー。メイン講師には、創業支援実績の豊富な中小企業診断士の方に務めて頂きました。

講義内容は「創業の心構え・基礎知識」<マーケティング>「販売促進の方法」<経理財務知識>「収支計画の作成」などを学びます。カリキュラムの中では、熊本県信用保証協会、地域金融機関の方々もお招きし、各専門分野についてお話しいただきました。

カリキュラムの最終日には、参加者の皆様に事業計画書の発表を行って頂き、創業に向けた意見交換を行いました。これからも「地域の創業支援事業」を継続的に行っていき、地域経済の発展につなげていきたいと考えております。



◆ BCP策定支援 & 事業継続力強化計画セミナー

令和3年11月17日・12月1日の2日間、「BCP策定支援 & 事業継続力強化計画セミナー」を商工会館にて開催。多くの方にご参加頂きました。

講師は、リスク管理の専門家である菌田恭久氏をお呼びし、<BCP(事業継続計画)と事業継続力強化計画>について学びました。熊本地震の経験を活かした、具体的なリスク管理と対策を計画に落とし込み、事業継続力の強化を図りました。

HOT NEWS!!

会員の皆様へのお役立ち情報や、
商工会のホットな話題をお届けします!

税や経理、経営のこと…誰かに聞いて欲しい!!

めんどろな税金や経理の話…、 相談したい融資や経営のことはお気軽に!

商工会では、金融、税務、経営改善、労務等幅広く経営に関する相談を受けています。また、商工会に加入して頂くことで、様々な情報提供を受けることが出来ます。現在、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業者の方々に対して、国、県、町より多くの支援策が出ております。いち早く会員の皆さまに支援策の情報を提供し、伴走的に支援させて頂くことで、支援策を活用できるような体制を整えております。

経営に関するお困りごと等ございましたら、是非、大津町商工会までお相談ください。



いよいよ、1年の集大成がやってきた…(汗)

確定申告の時期が近づいてきました。 みなさま、準備は整ってますか!?

毎年、大津町商工会では確定申告にあたり、所得税及び消費税申告に係る個別相談会を開催しております。日程等については、現在未定ですが、2・3月に開催する予定としております。税理士の先生から、直接、指導・アドバイスを頂くことのできる場となっておりますので、是非ご活用下さい。

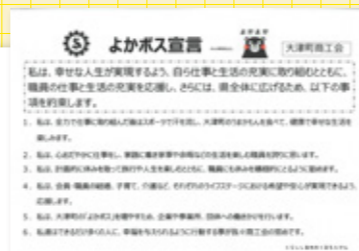
また、確定申告には、売上・仕入・経費等のわかる資料や生命保険・個人年金等の控除証明書等が必要となりますので、ご相談の際はご持参頂きますようお願い申し上げます。大津町商工会では、相談会以外でも確定申告に関するご相談は受けておりますので、いつでもご相談ください。



充実した、仕事や生活に理解のあるボスっていいの!?

大津町商工会は「よかボス宣言」を行い、 「よかボス企業」の登録を受けました!!

「よかボス」とは、自ら仕事と生活の充実に取り組むとともに、共に働く社員や職員、従業員等の仕事と生活の充実を応援するボス(企業の代表者等)のことです。熊本県では、県民一人ひとりの幸せな人生の実現のために、県民の総幸福量の最大化を目指して、企業のトップが、社員の仕事と結婚や子育て、介護などの充実した生活ができるよう応援することを宣言する「よかボス宣言」にオール熊本で取り組んでいます。あなたも「よかボス宣言」に、積極的に取り組んでみませんか!



企業の数だけドラマがある—

001

次の飛躍へ!

肥後製油株式会社

大津町の企業を直撃インタビュー! 笑顔の裏には、ご夫婦の数々のドラマがありました。



1 「人材に恵まれて会社も幸せです!」と4代目高木浩二さん(中央)と、希三子さん(左から2番目) 2 手作業で丁寧に充填 3 看板商品の〈プラスオイル〉

引き継いだ当初は、
店を畳もうと思ってた。

明治42年から続いている肥後製油株式会社。しかし引き継いだ当初経営は苦しい現状。4代目高木浩二さんの妻希三子さんは、「会社を畳むことが自分の役割なのか」と自問自答していた。

しかし、油で何か役に立てることがあるかもしれない、と考え直し「原点に戻ろう」と、福岡の油屋へ夫婦で勉強に。自分達でもできるところから、とまずは100年あったタンクを思い切って撤去。工場を綺麗にして行った。「ただただ変えなきゃ」ととにかく日々挑戦。その頃から商談会にも出店するが誰も見向きもしない。どうすればいいのか、まったく糸口が見つからなかった。

地元への思いが 突破口を開く

地元への思いは熱かった高木さんご夫婦。熊本県は農業県、地元で農作物でオイルを作り農業に貢献したい。打つ手はなかったが、考え方を変えたら思いがけない話。大学教授が「廃棄野菜を使ってオイルを作らないか」と特許論文を持って提案にやってきた。後の〈プラスオイル〉である。

捨てる農作物を「使って自分たち」にできることがあった!と胸が熱くなる。この時、ブランディングの大切さも同時に教わり、デザイナーと共にロゴからパッケージ、制服まで全てを一新する。

売れない原因は自分
とにかく諦めない

そして完成した〈プラスオイル〉。いよいよこれから、という時の2016年、熊本地震が発生した。業務用油が完全にストップ。その頃からいち早く家庭用へシフトする。しかし、頑張ったからといって商品が売れるわけではない。「ここでも壁にぶつかった。」「売れない原因は自分だ、と夫婦で真摯に向き合う。とにかく恥をかこう。何にでもぶつかってこよう。」諦めない姿勢、新しいことに挑戦し頑張っていると、徐々に手を差しのべてくれる人、守ってくれる人が現れた。

とにかく、ストーリー性と製造工程、そこでの価値を高めることにフォーカスし、他と差別化するためのブランディングに集中する。

逆境を跳ね返す 強い会社に成長したい

苦労した出来事の先に〈プラスオイル〉はフラッグシップ商品となっていた。今では商談会にもたくさんの方が集まり、他の商品も売れるようになっていった。

この経験が、後のコロナ禍でも影響を感じなかった要因に。売上が落ちても希望があった。「震災の方がよっぽど大変だった。商品ではなくファンを作ろう。」コロナだからできることがある。変化の時代に、「これだからチャンス」と、対応できる商品をごんごん提案していきたい。

肥後製油株式会社

菊池郡大津町室1985
☎096-293-3371
🕒 8:00~17:00 (休) 日曜日・祝日



明治42年創業時より百有余年、歴史と伝統を大切にしながら真摯に油づくりに取り組んできました。時代は変わり機械が進歩しても、物づくりに対する「想い」は変わりません。4代目となった今では、昔からの伝統は守りつつもお客様にお喜びいただける商品づくりと、日々新しいことに取り組んでいます。